

褥瘡などの皮膚トラブルを救う 皮膚・排泄ケアのエキスパート



石川県立看護大学 看護学部
成人・老年看護学講座教授
こんや ちづこ
紺家 千津子氏

- 1986年 金沢大学医療技術短期大学看護学科卒業
金沢大学医学部附属病院勤務
- 1997年 創傷・オストミー・失禁看護(現 皮膚・排泄ケア)
認定看護師資格取得
- 1998年 金沢大学医学部保健学科看護学専攻助手
- 2005年 金沢大学大学院医学系研究科博士後期課程修了
- 2006年 金沢大学大学院医学系研究科保健学専攻助教授
- 2010年 金沢医科大学看護学部教授
- 2019年 石川県立看護大学看護学部教授
- 2021年 日本創傷・オストミー・失禁管理学会理事長
- 2022年 石川県立看護大学附属看護キャリア
支援センター長兼務

能登半島地震による過酷な状況の中、被災地の高齢者施設では褥瘡(床ずれ)の患者が相次ぎました。いち早くサポートに取り組んだ皮膚・排泄ケア分野の第一人者、紺家千津子教授に、褥瘡や排泄ケアの最前線や能登支援で得たものを伺いました。

**だれもが明快に判断できる
重症評価スケールを開発**

金沢大学医学部附属病院でナースとして勤務していた頃に、真田弘美先生の教えを受け、研究者の道を歩み始めました。研究テーマは主に「創傷ケア」「排泄ケア」「遠隔看護支援」の3つです。「創傷ケア」では、褥瘡の傷だけでなくその周囲を清潔に保つことで、1.79倍早く治ることを実証し論文で発表。エビデンスのある褥瘡ケアとして、高齢者施設を中心に周知に努めています。さらに、症状によつてどんなケアが必要か即座に判断できる褥瘡評価スケール「DESIGNER[®]2020」の開発にも関わりました。2021年には「日本褥瘡学会」で国内の褥瘡ケアの実態調査をまとめ、日本の有病率が諸外国で最も低いことがわ

かり、日本のケアレベルの高さを世界に発信することができました。「排泄ケア」で最も注力しているのは、ストーマ(人工肛門)ケアです。患者さんが自立して排泄できるように、ストーマの位置決めや管理指導から関わり、術後はストーマ外来で経年変化や生活環境の変化に応じたサポートをしています。2012年には学会を通して、ストーマ周囲の皮膚障害の早期発見ケアのための評価スケール「ABCDS-toma[®]」を開発。重症度を画像で判断でき、適切なケアや完治までの日数もわかるので、医療従事者のケアだけでなく患者さんの来院の目安としても活用していただいています。

**オンラインネットワークで
遠隔支援看護をスムーズに**

コロナ禍では高齢者施設へ立ち入

見える化で、どこでも最良なケアで皮膚トラブル予防を目指します



りできなくなり、Zoomでのリモートによる「遠隔看護支援」を行っていた。皮膚の画像だけでなく、サーモや体圧分布マットなどを使って皮膚温や体への圧力を見える化し、ケアに役立っています。現在は各施設と医療機関が情報共有しながら、皮膚・排泄ケア認定看護師が最新のケア支援ができるしくみの整備に着手しています。

**ケアの専門家とつながり
被災地の施設に安心感**

能登半島地震で被災した高齢者施設で深刻な褥瘡患者が発生していると連絡が入った直後に、日本医師会災害支援チーム(JMAT)と連携して本学で支援チームを結成。2月7日〜3月10日の間、3名体制で連日被災地に通い、褥瘡ケアを実施しました。その甲斐あって現場関係者のケアレベルは各段に向上。褥瘡が原因で亡くなる最悪の事態は免れました。「迷ったとき頼れる専門家がいる」と知つていただき、気軽に相談できる関係性を築けたのも幸いでしたね。

私には、研究者、教育者であると同時に、認定看護師として実践家であり続けたいという思いがあります。目標は、褥瘡などの皮膚トラブルを防ぐために「いつでもどこでも最適なケアが受けられる社会」。高齢者施設や在宅などで、リモート支援や評価スケールなどを活用いただくことで、最善のケアを浸透させていきたいです。